

マラウィ避難民支援にご協力ください！

マラウィのIS勢力と政府軍の戦闘開始から2か月が過ぎ、ミンダナオ全土の戒厳令は年末まで延長されました。

30万人を超えてなお増え続ける避難民支援にご協力ください。私たちは現地パートナーPIHS、及び、日比NGOネットワークJPNを通じて支援しています。



2017年7月25日発行

NPO法人ビラーンの医療と自立を支える会

(英文名略称・HANDS)

本部：〒227-0033 横浜市青葉区鴨志田町516-11

TEL & FAX: 045-500-9151

E-mail: hands-mindanao@nifty.com

http://hands-mindanao.a.la9.jp/

郵便振替口座 00210-5-72693

(加入者名) ビラーンの医療と自立を支える会

ミンダナオの先住民族支援は、今もこれからも、現地パートナーとの二人三脚で

ミンダナオ行きを10日後に控えた5月下旬、「みんなで話し合った。やはり戒厳令解除まで待った方がよい」という連絡が入りました。現地でのスケジュール調整を依頼したPFPのビビアンさんからです。数日前、PFPとCMIPに個別に確認した時は大丈夫という話でした。マラウィでの戦闘拡大、避難民急増情報で、関係団体に相談したようです。

CMIPのチャリスさん、SCMSIのガンダムさん、COWHED元マネージャー・ジェマさんを含む「みんな」の意見を尊重し、6月渡航は延期としました。

現地事務所を持たない当団体には、このような緊急時だけでなく、各種事業の実施についても、現地パートナー団体の協力が不可欠です。

私たちのプロジェクト資金や奨学金、また、寄付物品の受け皿である現地団体同士は、ある意味でライバル関係にあります。教育はCMIPとSCMSI、医療はPIHS、環境保全はPFP、女性自立支援はCOWHEDとNTPというように分野が違うためか、互いに連携して、安全で効率的な事業モニターをサポートしてくれています。以下、改めて、大切なパートナーとの関係を紹介いたします。



CMIP (Catholic Mission to the Indigenous People, Inc.)

先住民族カトリックミッション)

当会発足の1996年から、ビラーンの村を中心に、民族文化振興・医療・教育・水道普及等を協働してきた。当初、最優先した患者支援はニーズが減り、2年前からは教育支援が中心になった。代表はマーク神父(上)。連絡・報告は事務局のチャリスさん(左) チャロさん(右)



PFP (Partners for First People Foundation, Inc.)
先住民族のパートナー)

2002年に当会が山口県のNPO法人「FOT」の活動を引継いだ結果、新たにパートナーとなった。以降、ブラクール校支援と大小23件の持続可能な森林農業(アグロホルストリー)実施で協働してきた。



引継ぎ時4名いた専従は、資金難で、農業専門家ニックさん(右)と事務担当ビビアンさん(左)の2名だけとなった。当会奨学生の農業専攻ポニファシオが随時、実地指導を手伝っている。



代表は看護師でもあるナブサさん

PIHS (Pasasambao Integrated Health Service, Inc. パササンバオ総合健康支援)

2002年の母子の識字と健康教室事業から始まり、住民主体の健康な村づくりと活動財源創出事業を協働。今年は助産所開設事業と、6月からのマラウィ避難民支援で協力している。

SCMSI (Santa Cruz Mission School Inc. サンタクルスミッション学校法人)

2013年6月、当会がJOFPAの活動を引継いで以降、パートナーとして、民族文化継承を理念とする学校運営や里子支援を協働している。



学長でチボリ民族のガンダムさん(左)、里子担当でムスリムのアーミアさん



COWHED (Cooperative of Women in Health & Development 女性の健康と自立推進組合)

伝統織購入や2002年以降の研修及び「伝統の家」建設等の支援により、90%の自立を確認したが、伝統製品購入による支援は継続中。代表はネニータさん(上)、マネージャーはジェナリンさん

NTP (Nabal Tabih Production ビラーンの伝統織ナバルタビ振興グループ) 2006年の織の家支援以降協働。P5 参照